

『講左衛門通信では、東円寺に残っている版木や古文書を中心に話をしてきたんじゃが、今日は富士山について話をしようと思っておるんじゃ。富士山が世界文化遺産に登録された理由は、富士山は古来、日本の象徴として、日本人の山岳信仰や葛飾北斎らの浮世絵の題材にもなり、文化的意義が評価されたんじゃよ。しかしじゃ、現在、富士山の山岳信仰は衰退してしまって、山岳信仰がどのようなものであるのか知らない人が多いと思うんじゃよ。そこで、先日10月3日に「不二の祈り」の祈禱をしてくださった上原大阿闍梨様の話をしようと思うんじゃ。』

『確かにそうでますん。現在は、富士山の信仰というと富士講が有名でますん。けれども、大阿闍梨様は天台宗のお坊さんでますん。何がどう違うのか？知りたいでますん。』

『クニマッスンが言うように、確かに富士山信仰というと、富士講が有名なんじゃが、富士講が富士山信仰として有名になったのは、江戸時代なんじゃよ。それ以前で、もっとも有名な方がいるんじゃが、役小角（えんのおづの）と言ってな、修験道の開祖と言われておる方じゃ。修験に関わりの深いお寺には、役小角の像が残っているんじゃよ。富士山と役小角の関係も深いんじゃ。役小角は、時の朝廷が恐れるほどの法力を持っていたんじゃよ。それほどの強い力を持っていたために、朝廷に役小角の母親は人質に取られ、役小角は伊豆大島に流刑されたんじゃ。その流刑先から「毎晩海上を歩いて富士山に登った」という逸話が残っているんじゃ。修験といえば、世界遺産の熊野古道や吉野の金峰山などが有名じゃが、必ず役小角の名が記されておるんじゃよ。修験は、明治の廃仏毀釈によって衰退してしまっただんじゃが、現代にも立派に継承されているんじゃよ。その代表が、千日回峰行なんじゃ。千日回峰行が誰でもできると思ったら大間違いじゃ。諸先輩方の推薦がなくては、修行に入る事はできないんじゃ。』

『第一段階は、人となりが大切であるということですか？』

『そうなんじゃ。しかしじゃ、諸先輩が推薦する多くの修行僧が皆千日回峰行を満行出来るわけではないんじゃよ。なぜなら、この千日回峰行は、平安時代から伝わる、多くの決まりを厳守しなければならんからじゃ。そのような意味においても、大阿闍梨様というのは、生き仏であるといわれておるんじゃよ。』

『そのような方が、富士山世界文化遺産登録記念の祈禱して下さったということは、もの凄いことだったでますん。』

『そうなんじゃ。今回は、山岳信仰としての富士山は衰退してしまっただんじゃが、上原大阿闍梨様と千日回峰行について話しながら、山岳信仰について、想像を膨らませてほしいと思っておる。』



クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)